



南蛮写急須(木米造)



朱泥茶銚 三友居



企画展

文人茶と静岡県で活躍する 煎茶流派

令和8年

令和9年

11/7^土 - 2/15^月



仁清写五節句煎茶茶碗(永楽保全造)



白泥涼炉 梅図盛彫(木米造)

関連プログラム(詳細は裏面をご覧ください)

◆学芸員による「ギャラリートーク」
1月10日(日)

◆県内煎茶流派による「煎茶道を楽しむ会」
1月30日(土)、31日(日)

【開館時間】9:00~17:00(入場は16:30まで)

【休館日】毎週火曜日及び年末年始12月21日(月)~1月2日(土)

【観覧料(常設展・企画展共通)】一般(15歳以上)500円

※学生・70歳以上の方は、身分証明書のご提示で無料になります。

※障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証、

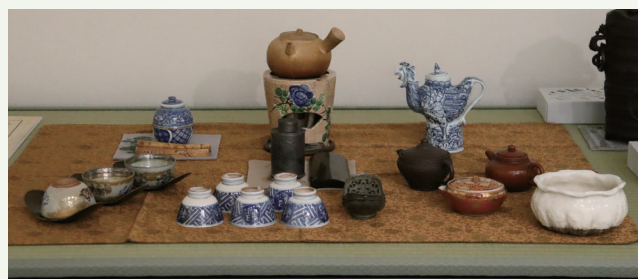
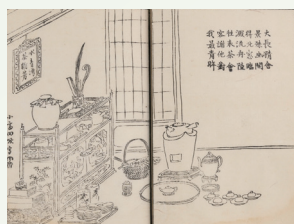
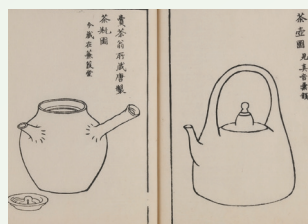
登録者証をお持ちの方と付添者1名は手帳等のご提示で無料になります。

協力：静岡県茶道連盟、小笠原流煎茶道静岡支部、皇風煎茶禮式静岡県清風連合会、煎茶道黄葉弘風流、煎茶道静風流ほか



ふじのくに
茶の都
ミュージアム

Tea Museum, Shizuoka



主な展示内容

- 一. 中国の文人とお茶
- 二. 中国から日本へ 煎茶の伝来
- 三. 日本の煎茶文化成立と発展
- 四. 煎茶道の流派と煎茶の広がり
- 五. 静岡で活躍する煎茶流派

江戸時代中期、黄檗宗の僧であった売茶翁は、自ら茶道具を携えて京都各地で煎茶を提供し、「一服一銭」を実践しました。その煎茶は遊芸化した茶の湯を批判し、中国の文人趣味を取り入れた反俗的な清雅な精神を求めるものでした。上田秋成、田能村竹田、頼山陽、(青木)木米など、江戸時代を代表する文人たちは、彼の煎茶を慕い、煎茶道へと発展させました。

19世紀には、自由と風流を求めた文人たちに愛好された煎茶の文化は最盛期を迎えました。また、売茶翁の精神を煎茶の点前により追求しようとする宗匠も現れ、その後様々な煎茶流派が誕生しました。

本展では、煎茶書、煎茶会図録、絵画、煎茶道具などを展示し、文人茶の歴史や煎茶文化、さらに静岡県で活躍する煎茶流派を紹介します。

①風雅人書画の集會(広重二代画、明治元年) ②普茶料理 煎茶図『江戸流行料理通(四篇)』(栗山善四郎著、天保6年) ③売茶翁像『兼葭堂雜録』(木村兼葭堂著、安政6年) ④『清風瑣言』(上田秋成著、寛政6年) ⑤青湾茶会図録(田能村直入著、文久3年) ⑥静岡県で活躍する煎茶流派による席飾り(写真は煎茶道静風の参考展示) ※資料の劣化を防ぐため、古書及び絵画資料は写真パネルでの展示を予定しています。

関連プログラム

ギャラリートーク

学芸員が企画展の見所を解説します。

- 日時** 令和9年1月10日(日)
①10:30~11:00 ②13:30~14:00
- 場所** 博物館2階企画展示室
- 定員** 10名程度(当日先着順) ※総合案内で整理券を配布します。
- 参加料** 無料 ※当日の観覧券(一般500円)が必要です。
- ※当日、整理券をお受け取りの上、企画展示室前へお集まりください。

煎茶道を楽しむ会

静岡県内の煎茶流派がお茶とお菓子でおもてなしします。立礼席(椅子席)の煎茶会ですので、初心者の方もお気軽にご参加ください。

- 日時** 令和9年1月30日(土)、31日(日)
10:00~15:00(受付9:30~14:30)
- 担当流派** 1/30(土)煎茶道静風流・小笠原流煎茶道
1/31(日)煎茶道黄檗弘風流・皇風煎茶禮式
- 場所** 博物館1階多目的ホール
- 定員** 各流派180名(当日先着順)
- 参加料** 800円 ※別途企画展会期中の観覧券(一般500円)が必要です。

次回企画展

「新感覚!五感でお茶を再発見(仮称)」

令和9年3月6日(土)~6月28日(月)

※写真はイメージです。内容は変更になることがあります。詳細はホームページでご確認ください。

ふじのくに茶の都ミュージアム

〒428-0034 静岡県島田市金谷富士見町3053番地の2
TEL 0547-46-5588 FAX 0547-46-5007
HP <https://tea-museum.jp>



HP



Instagram



Facebook

交通案内

- JR金谷駅よりバス・タクシーで約5分、徒歩約25分
- 東名高速道路:相良牧之原ICより約10分
- 新東名高速道路:島田金谷ICより約13分
- 国道1号:大代ICより約10分

